

Quality is more than a word

ESPEC



第 **71** 期

中間株主通信

2023年4月1日から2023年9月30日まで



株主のみなさまへ



代表取締役会長 いしだ まさあき
石田 雅昭

代表取締役 執行役員社長 あらた さとし
荒田 知

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2023年度第2四半期累計期間(2023年4月～9月)の事業環境といたしましては、社会のデジタル化や脱炭素化を背景にエレクトロニクスや自動車関連の投資が堅調に推移し、主に高速大容量通信などのIoT分野や世界的な電気自動車(EV)シフトによる需要が継続いたしました。生産面におきましては、

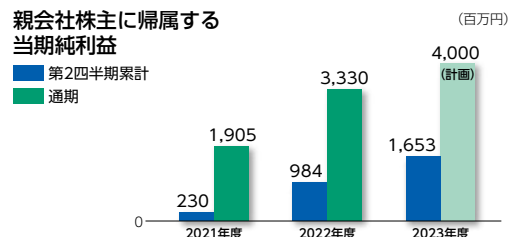
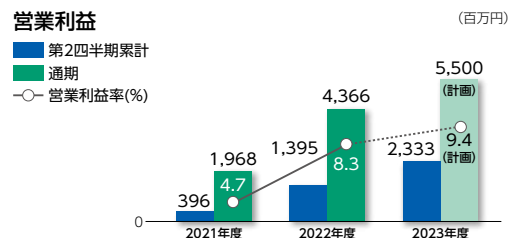
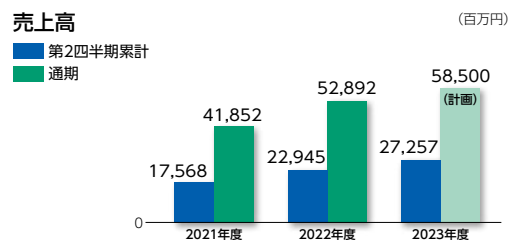
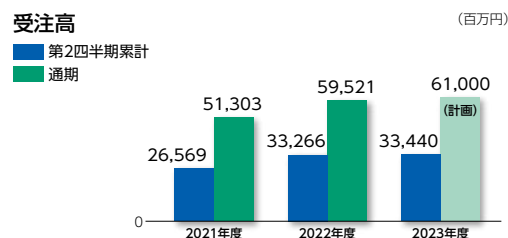
部品の調達状況が改善し、積み上がった受注残高の消化および製品リードタイムの正常化に向けて生産対応を強化いたしました。

経営成績といたしましては、受注高は特にEV・バッテリー分野がけん引し高水準を維持することができ、過去最高となりました。売上高は、生産対応の強化により前年同期比で18.8%増加し過去最高となりました。エリアでは、日本、北米、欧州を中心に売上高が増加し、海外売上高比率は58.9%(前年

同期比1.1pt増)となりました。利益面につきましては、販管費が増加いたしました。主に増収により営業利益は前年同期比で67.2%増加、親会社株主に帰属する四半期純利益は68.1%増加し、いずれも過去最高となりました。

2023年度通期計画につきましては、期初予想を上回る見込みとなり、10月27日に上方修正を行いました。受注高は引き続き堅調に推移すると見ており、610億円と前年度並みを予想しております。また、売上高は585億円(前年度比10.6%増)、営業利益は55億円(同26.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は40億円(同20.1%増)を計画しております。IoTやEVといった先端技術分野のニーズにお応えする製品・サービスの拡充により、受注を獲得してまいります。また、さらなる生産対応の強化により製品リードタイムの正常化に努め、収益性の向上に取り組んでまいります。なお、配当金につきましては1株当たり年間70円から変更しておりません。

株主のみなさまにおかれましては、一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



1株当たり配当金

	2021年度	2022年度*	2023年度
中間	18円	24円	25円
期末	42円	45円	45円 (計画)
合計	60円	69円	70円 (計画)
配当性向	70.7%	45.9%	38.2% (計画)

* 創業75周年の記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

社会のデジタル化・脱炭素化を背景に必要性が高まる環境試験器 IoTやEV・自動運転など世界の先端技術の実用化に貢献

当社は2022年度に受注高・売上高が過去最高を更新しました。この成長をけん引したのが主力の環境試験事業です。世界30%以上、国内60%以上(当社推定)のトップシェアを誇る当社の環境試験器についてご紹介します。

地球上のあらゆる気象環境を再現

私たちは、スマホや家電、自動車など暮らしを豊かにする多くの製品に囲まれています。普段何気なく使用しているこれらの製品。実は、私たちの手に届く前に環境試験という厳しい試験をパスしています。環境試験器は、温度、湿度、圧力、光などの環境因子を組み合わせて、熱帯雨林や降雪地帯などあらゆる気象環境を再現します。メーカー各社は開発段階で環境試験器を用いることにより、世界各地に出向くことなく、多様な気象環境による影響をあらかじめ分析・評価しています。雪山でもスマホが使え、悪天候でも自動車が安全に走るの、使用環境を想定した環境試験を何度も行っているからです。

幅広い分野で新技術・新製品の品質確保に活躍

環境試験器は開発用途で使用され、新技術・新製品の性能・品質確保に不可欠です。例えば、スマホに搭載される電子部品を温度85℃、湿度85% rhといった過酷な環境に何千時間もさらして耐久性を確認します。さらにモジュール単位、完成品単位でも試験を行います。自動車の場合、車を一台まるごと入れる大がかりな試験もあります。環境試験は、電子部品・電子機器、自動車、半導体を中心に、化学、建材、医療機器、医薬品、食品と幅広い分野を対象としており、大学など研究機関でも行われています。日常生活では目にする機会はありませんが、環境試験器は私たちの身近なところで活躍しています。



環境因子を組み合わせてあらゆる気象環境を再現

環境試験は各種規格に定められており開発・品質評価過程で必ず実施される

高い技術力により先端技術の課題解決に貢献

社会のデジタル化や脱炭素化を背景に、環境試験器の必要性が高まっています。IoT分野ではスマホや基地局、サーバー、自動車分野ではバッテリー、モーター、センサーなどの高性能化が進んでいます。これら電子部品は、通信の高速化・大容量化により部品自体が発熱したり、部品点数の増加により周辺の影響を受けやすくなったり、電源のON/OFFにより急激な温度変化にさらされるなど、過酷な環境で使用されます。そのため、このような環境をより正確に再現することが求められています。当社の技術力によって高度化する試験需要にお応えし、お客さまの技術課題の解決に貢献してまいります。



先端技術分野の高度化するニーズにお応えする環境試験器

納入事例

株式会社本田技術研究所 先進技術研究所 材料・プロセス領域 様

全固体電池の実用化に向けて、自動車の走行時、充電時、停車時における充放電性能を把握する必要があります。寒冷地や赤道地帯など自動車を使用する地域を想定した温度環境での評価に、エスペックの恒温槽（温度環境を再現する試験器）を使用いただいています。

- 製品名 充放電試験用恒温槽
- 試験対象 全固体電池
- 試験内容 一定の温度環境下で電流を流し、充電・放電を繰り返す充放電試験



電池の性能を評価する充放電試験の様子



充放電試験用恒温槽（本田技術研究所内）

環境への取り組み

2030年度 温室効果ガス排出量削減目標が SBT 認定を取得

2023年7月、エスベックグループが掲げる2030年度までの温室効果ガス排出量削減目標が、国際的なSBTイニシアチブより科学的な根拠に基づいた目標であると認められ、「SBT(Science Based Targets)」の認定を取得しました。第8次環境中期計画のもと、グループ全体での取り組みを進めてまいります。



2030 年度 温室効果ガス排出量削減目標 (2019 年度比)

SCOPE 1+2 (自社排出) : 60%削減

SCOPE 3 (間接排出) : 30%削減

関西学院大学カリキュラム 環境セミナーを開催

2023年6月、神戸R&Dセンターにて、関西学院大学のカリキュラムに採用されている「命を守る森づくり推進リーダー養成セミナー」を4年ぶりに開催し、10名が受講しました。森の再生に関する講義と苗づくりの実習を行い、学生からは「自分で苗づくりをして森への関心が強くなった」「季節による植物の変化を次回の実習で確認したい」との声が上がりました。



コナラの苗づくり

組織開発・人材育成の取り組み

教育制度の充実および 社内コミュニケーション活性化を推進

社員一人ひとりが自立的に行動し成長できる組織を目指し、さまざまな取り組みを行っています。教育制度としては、海外グループ会社に社員を一定期間派遣しグローバル人材を育成する制度や、経営幹部の育成を目的とした制度、外国語学習や通信教育を支援する制度も設けています。2022年度は、社員が自由に講座を選び何度でも視聴できる動画学習ツールを導入しました。おすすめ講座を紹介し合うなど社員が主体となって学びの輪を広げています。また、役員と社員が直接対話する機会を増やすとともに、合宿形式の研修会を再開し、一体感づくりを推進しています。さらに「1on1 ミーティング」というコミュニケーション手法を取り入れ、上司と部下の対話も深めています。オープンで活発なコミュニケーションを促進し、異見が飛び交う組織文化を醸成してまいります。



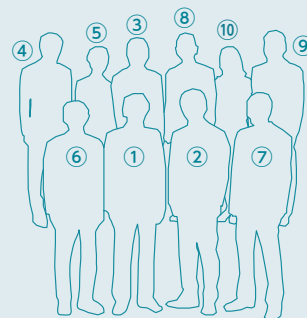
企業理念の理解促進や一体感づくりを目的とした研修会

経営体制のご紹介

2023年6月開催の第70回定時株主総会で取締役（監査等委員である取締役を除く）7名が選任され、監査等委員である取締役3名を合わせ取締役10名の体制となりました。当社の経営体制をご紹介します。

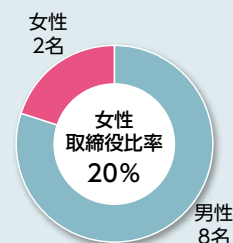
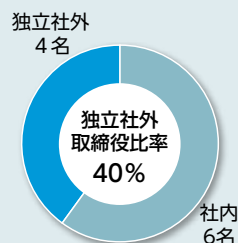


- | | |
|-----------------|------------------|
| 代表取締役会長 | 社外取締役 |
| ① 石田 雅昭 | ⑥ 柳谷 彰彦 |
| 代表取締役
執行役員社長 | 社外取締役 |
| ② 荒田 知 | ⑦ 平田 一雄 |
| 取締役
常務執行役員 | 取締役
(常勤監査等委員) |
| ③ 末久 和広 | ⑧ 石井 邦和 |
| 取締役
執行役員 | 社外取締役
(監査等委員) |
| ④ 大島 敬二 | ⑨ 田中 崇公 |
| 取締役
執行役員 | 社外取締役
(監査等委員) |
| ⑤ 西谷 淳子 | ⑩ 吉田 恭子 |



取締役会の構成

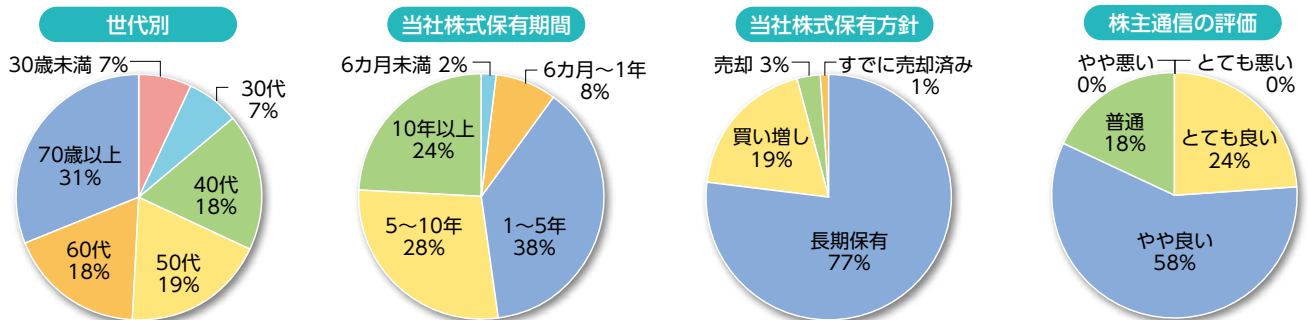
取締役10名のうち、社外取締役は4名、女性取締役は2名です。また、社外取締役は東京証券取引所が指定を義務付ける独立役員に指定しています。なお、当社は2022年6月の第69回定時株主総会の決議により、監査等委員である取締役が取締役会における議決権を有する監査等委員会設置会社に移行しています。取締役会における審議の充実化と監督機能のさらなる強化を図ってまいります。



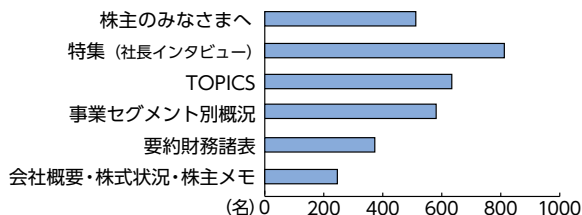
株主アンケート結果のご報告

第70期株主アンケートでは、1,818名(男性:76% 女性:24% 回答率:30%)のみなさまにご回答いただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。以下のとおり、アンケートの結果をご報告する

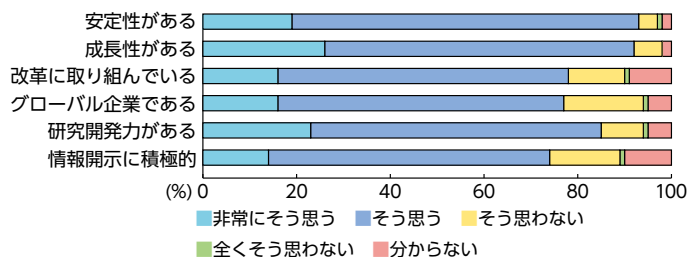
とともに株主さまからの声を一部ご紹介します。みなさまからの貴重なご意見を真摯に受け止め、当社についてよりご理解を深めていただけるよう株主通信のさらなる充実や今後のIR活動に活かしてまいります。



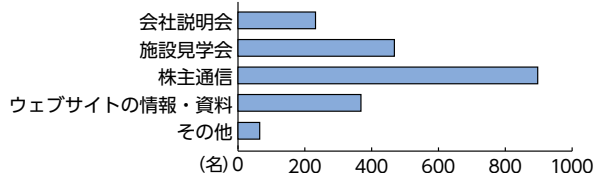
株主通信に興味を持った内容 (複数回答可)



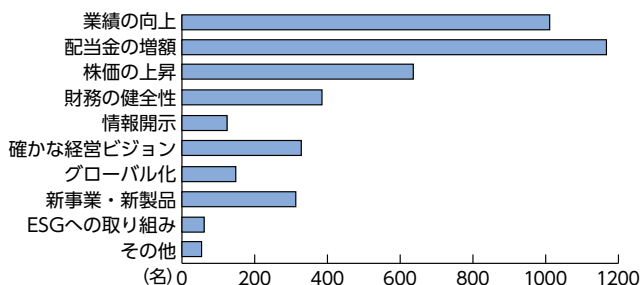
当社に対するイメージ



充実してほしいIR活動 (複数回答可)



長期保有・買い増しに重要なこと (複数回答可)



株主さまからの声

環境試験器の需要が高まっているんですね。
環境試験器についてあらためて教えてほしい

▶事業紹介のご要望が多く、中でも当社の主力事業である環境試験器について解説してほしいとの声を多数いただきました。このような声にお応えし、今回の株主通信では環境試験事業を特集しました(P.3-4)。「環境試験とは？」に加え、当社の環境試験器が使用されている分野などをご説明しています。今後も当社理解をより深めていただけるよう、他の事業や製品を紹介してまいります。

エスベック製品はどのように使用されているの
ですか？ 顧客の声を聞いてみたい

▶納入事例として株式会社本田技術研究所様を紹介しました(P.4)。また、「サステナビリティレポート2023」では同社へのインタビュー記事を掲載しています。ぜひご覧ください。



◀サステナビリティレポート2023

社内コミュニケーション活性化は良い取り組みですね。
組織開発や教育について具体的に知りたい

▶最近の取り組みをTOPICS(P.5)にて紹介しました。創造性と活力あふれる成長企業となれるよう、組織開発・人材開発戦略を進めてまいります。

「エスベック50年の森」の成長が楽しみ！
植樹後の森の様子を教えてください

▶「エスベック50年の森」は、兵庫県三田市の国有林を借り受け、50年かけて森を育てる活動です。2022年11月に第1回植樹祭を行い、4,000本の苗木を植えました。以降、定期的に苗の生育状況を確認するとともに、森を訪れる鳥類や野生動物の観察を行っています。苗木は順調に成長しており、周辺にはホオジロやキセキレイが観察されました。2024年春までに植樹祭を2回行い、計12,000本の苗木を植える予定です。



アカマツ(ひょうご元気松)
4月、新芽が伸び始めました



クリ(シバグリ)
8月、早くも実をつけていました

IRサイトはさまざまな賞を受賞しているんですね。
見てみようと思います

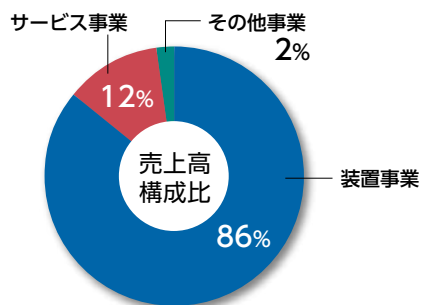
▶ありがとうございます。2023年3月、トップページのデザインを刷新し、目的のページにアクセスしやすくなりました。ぜひご利用ください。



◀IRサイト トップページ

このほか「いつも株主通信を楽しみにしています」「これからも社会に必要とされる事業を続けてください」といった温かいお言葉を多数いただきました。

事業セグメント別概況



※連結消去△197百万円

〈装置事業〉

- 環境試験器
- エネルギーデバイス装置
- 半導体関連装置

〈サービス事業〉

- アフターサービス・エンジニアリング
- 受託試験・レンタル

〈その他事業〉

- 環境保全
森づくり・水辺づくり・都市緑化
- 植物育成装置
植物工場、研究用育苗装置

装置事業

環境試験器については、国内市場では、受注高は前年同期比で汎用性の高い標準製品が減少したものの、カスタム製品は自動車関連を中心に増加しました。売上高は、標準製品・カスタム製品ともに増加しました。海外市場においては、受注高は前年同期を下回ったものの、売上高は主に北米、欧州が増加しました。エネルギーデバイス装置については、EV・バッテリー向けの投資拡大により、主に国内において充放電試験用チャンバーが好調に推移し、受注高・売上高ともに前年同期比で大幅に増加しました。

半導体関連装置については、主にメモリ関連の投資抑制の影響を受け、受注高は前年同期比で減少し、売上高は前年同期並みとなりました。

装置事業全体では売上高は19.8%増加し、営業利益は販管費が増加したものの主に増収により55.0%増加しました。

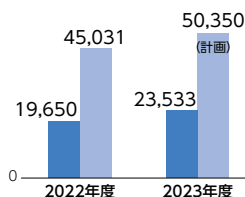


降雨や霧、降雪環境を再現できる当社「全天候型試験ラボ」
自動運転用センサーの性能評価方法を研究

売上高

(百万円)

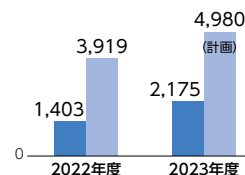
■ 第2四半期累計
■ 通期



営業利益

(百万円)

■ 第2四半期累計
■ 通期

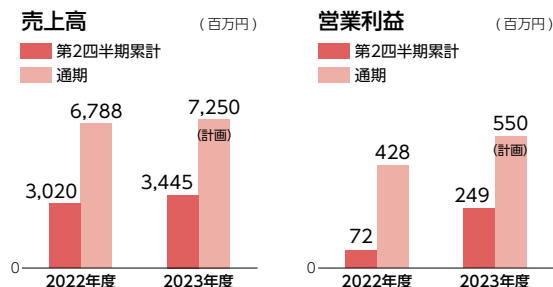


サービス事業

アフターサービス・エンジニアリングについては、予防保全・修理サービスともに堅調に推移し、受注高は前年同期並み、売上高は増加しました。受託試験・レンタルについては、車載用バッテリーを中心に受託試験が堅調に推移し、受注高・売上高ともに増加しました。サービス事業全体では売上高は14.1%増加し、営業利益は増収および受託試験での原価率改善により244.7%増加しました。

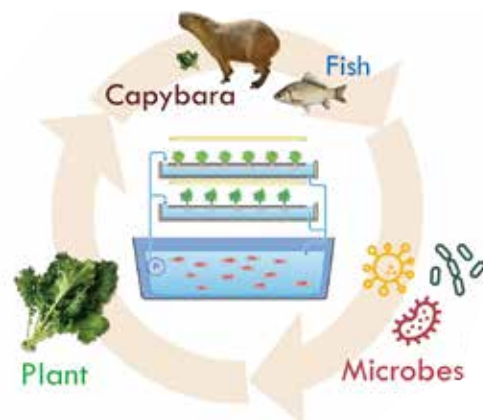


バッテリー安全認証センター(宇都宮テクノコンプレックス内)
車載用バッテリー向け試験設備を増強

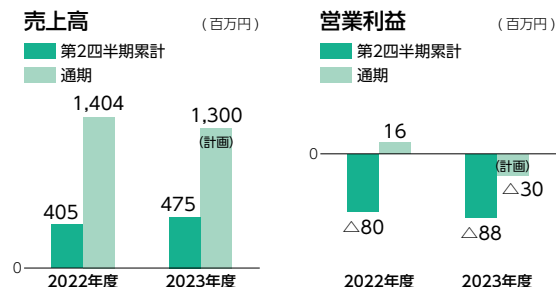


その他事業

環境保全事業および植物育成装置事業を中心とするその他事業では、受注高は森づくりや植物研究用装置が低調となり前年同期比で12.3%減少しました。売上高は、新たに手掛けている植物の水耕栽培と陸上養殖を組み合わせたアクアポニックスの納入などにより17.5%増加しました。しかしながら、原価率の悪化により88百万円の営業損失となりました。



アクアポニックスを活用した物質循環システム(イメージ)
川崎水族館および日本大学と共同で実証実験を開始



連結貸借対照表

科 目	(百万円)		
	前第2四半期末 2022年9月30日	前年度末 2023年3月31日	当第2四半期末 2023年9月30日
資産の部			
流動資産	45,670	48,000	51,667
固定資産	19,071	19,176	22,373
有形固定資産	12,630	12,501	13,437
無形固定資産	1,253	1,227	2,392
投資その他の資産	5,187	5,447	6,543
① 資産合計	64,741	67,176	74,041
負債の部			
流動負債	14,923	17,277	21,676
固定負債	2,833	2,726	2,859
② 負債合計	17,756	20,003	24,535
純資産の部			
株主資本	43,715	44,408	45,064
資本金	6,895	6,895	6,895
資本剰余金	7,120	7,158	7,158
利益剰余金	31,873	33,673	34,328
自己株式	△2,174	△3,318	△3,318
その他の包括利益累計額	3,050	2,544	4,215
非支配株主持分	219	218	225
③ 純資産合計	46,984	47,172	49,505
負債純資産合計	64,741	67,176	74,041

① 総資産

前年度末と比べ6,864百万円の増加となりました。その主な要因は、短期借入金の増加などに伴う現金及び預金の増加3,251百万円、受注残高の増加に伴う原材料及び貯蔵品等の棚卸資産の増加2,362百万円、売上債権(受取手形、売掛金及び契約資産ならびに電子記録債権)の回収による減少2,343百万円、連結子会社による事業譲受に伴うのれんの計上等による増加1,143百万円、保有株式の時価上昇による投資有価証券の増加、繰延税金資産の増加等による投資その他の資産の増加1,096百万円、取得による土地の増加558百万円等などによるものです。

② 負債

前年度末と比べ4,531百万円の増加となりました。その主な要因は、短期借入金の増加3,510百万円、事業譲受の取得対価を未払金に計上したことなどによる未払金等その他流動負債の増加1,990百万円、仕入債務(支払手形及び買掛金ならびに電子記録債務)の減少977百万円などによるものです。

③ 純資産

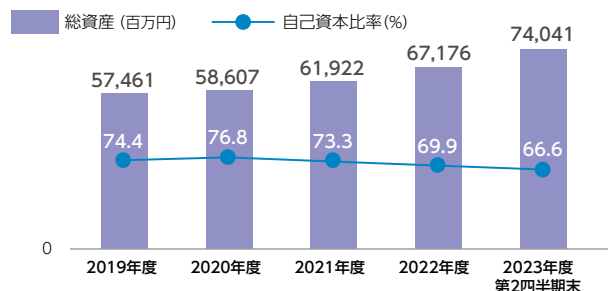
前年度末と比べ2,332百万円の増加となりました。その主な要因は、円安進行に伴う為替換算調整勘定の増加1,284百万円、当第2四半期累計期間において親会社株主に帰属する四半期純利益が1,653百万円計上された一方、配当金として993百万円利益処分されたこと等による利益剰余金の増加655百万円、その他有価証券評価差額金の増加386百万円などによるものです。

連結損益計算書

(百万円)

科 目	前第2四半期累計 2022年4月1日から 2022年9月30日まで	当第2四半期累計 2023年4月1日から 2023年9月30日まで	前年度 2022年4月1日から 2023年3月31日まで
売上高	22,945	27,257	52,892
売上原価	15,150	17,771	34,935
売上総利益	7,794	9,485	17,957
販売費及び一般管理費	6,399	7,151	13,590
営業利益	1,395	2,333	4,366
営業外収益	361	225	346
営業外費用	25	32	48
経常利益	1,731	2,526	4,664
特別利益	0	0	20
特別損失	3	5	14
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,728	2,520	4,670
法人税、住民税及び事業税	739	860	1,334
四半期(当期)純利益	989	1,660	3,336
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益	5	6	5
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	984	1,653	3,330

総資産・自己資本比率



※2021年度より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年 3月31日)等を適用しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	前第2四半期累計 2022年4月1日から 2022年9月30日まで	当第2四半期累計 2023年4月1日から 2023年9月30日まで	前年度 2022年4月1日から 2023年3月31日まで
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,322	1,359	1,916
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△400	△960	△1,061
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,100	2,330	△2,898
現金及び現金同等物に係る換算差額	548	521	183
現金及び現金同等物の増減額	1,370	3,251	△1,859
現金及び現金同等物の期首残高	16,157	14,298	16,157
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	17,527	17,549	14,298

④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は1,359百万円となりました。これは主に、売上債権の減少による資金の増加2,915百万円、税金等調整前四半期純利益の計上による資金の収入2,520百万円、棚卸資産の増加による資金の減少2,023百万円、仕入債務の減少による資金の減少1,346百万円、法人税等の支払による資金の減少890百万円などによるものです。

⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は960百万円となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出1,145百万円によるものです。

⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は2,330百万円となりました。これは主に、短期借入金の借入による資金の収入3,500百万円、配当金の支払989百万円などによるものです。

会社概要・株式の状況・株主メモ

会社概要(2023年9月30日現在)

社名	エスペック株式会社
本社	〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
創業	1947年(昭和22年)7月25日
設立	1954年(昭和29年)1月13日
資本金	6,895百万円
従業員数	1,738名(連結) 802名(単体)

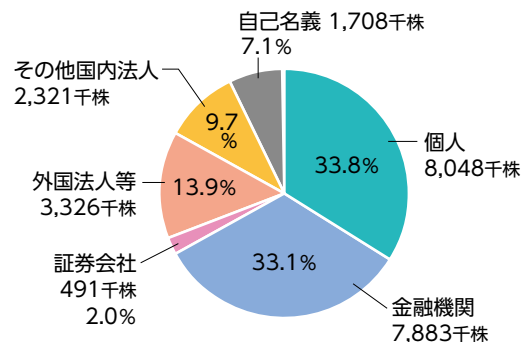
役員(2023年6月23日現在)

代表取締役会長	石田 雅昭
代表取締役執行役員社長	荒田 知
取締役常務執行役員	末久 和広
取締役執行役員	大島 敬二
取締役執行役員	西谷 淳子
社外取締役	柳谷 彰彦
社外取締役	平田 一雄
取締役(常勤監査等委員)	石井 邦和
社外取締役(監査等委員)	田中 崇公
社外取締役(監査等委員)	吉田 恭子
執行役員	浜野 寿之
執行役員	淵田 健二
執行役員	渡部 克彦
執行役員	梅原 武彦

株式の状況(2023年9月30日現在)

発行済株式総数	23,781,394株 (自己株式1,708,580株を含む)
株主数	6,484名

所有者別株式数分布状況



大株主

株主名	持株数 千株	持株比率 %
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,576	16.20
エスペック取引先持株会	2,227	10.09
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,843	8.35
エスペック従業員持株会	806	3.65
日本生命保険相互会社	553	2.50
佐々木嘉樹	440	1.99
株式会社立花エレテック	419	1.89
MSIP CLIENT SECURITIES	391	1.77
第一生命保険株式会社	276	1.25
住友生命保険相互会社	268	1.21

※持株比率は自己株式を除いて計算しております。

株主メモ

決 算 期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
中間配当制度	有
基 準 日	3月31日および取締役会決議によって あらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所	東京証券取引所(証券コード:6859)
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324(通話料無料) (土、日、祝日を除く9:00~17:00)
株主総会資料の電子 提供制度(書面交付請求) お 問 合 せ 先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324(通話料無料) (土、日、祝日を除く9:00~17:00)
お 取 扱 店	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店)
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) 株式会社みずほ銀行(本店および全国各支店)
公 告 方 法	電子公告 電子公告掲載の当社ウェブサイトURL https://www.espec.co.jp/ir/stock/notice.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載

お問合せ先

エスベック株式会社 サステナビリティ推進部 IR・広報グループ
Tel: 06-6358-4744 e-mail: ir-div@espec.jp

IRサイト・メール配信サービスのご案内

IRサイトでは、財務・業績データや株式情報などさまざまな情報をご覧いただけます。
ぜひご利用ください。

■ 決算説明会ページ

2023年度第2四半期決算について説明動画を掲載しています。



<https://www.espec.co.jp/ir/event/presentation.html>

■ 個人投資家さま向けページ

当社の事業や強みについてご紹介しています。

<https://www.espec.co.jp/ir/individual/>



■ IRメール配信サービス

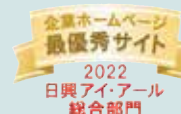
IR情報をタイムリーにお知らせします。IRサイトよりご登録いただけます。

<https://www.espec.co.jp/ir/dirnet.html>



■ IRサイトに対する 社外評価

当社のIRサイトは社外より高い評価をいただいています。



エスペック株式会社



表紙・裏表紙の写真について

神戸R&Dセンター内の生物多様性フィールド「エスペックバンビの里」の写真を用いました。
表紙のお花は寒椿、裏表紙はエスペックビオトープのトンボ池です。